

安全データシート

酢酸

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名	: 酢酸
CB番号	: CB7854064
CAS	: 64-19-7
EINECS番号	: 200-580-7
同義語	: 酢酸, 氷酢酸

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途	: 各種製造用原料（酢酸ビニル、酢酸エステル、無水酢酸、アセトン、食品調味料、医薬品等）、染色酸、食用、溶媒に用いられる。エステルとして各種溶剤、香料に用いられ、酢酸ビニルモノマー、モノクロロ酢酸、無水酢酸、セルロースアセタート、テレフタル酸などの原料として重要な工業薬品である。
推奨されない用途	: なし

会社ID

会社名	: Chemicalbook
住所	: 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話	: 010-86108875

2. 危険有害性の要約

2.1 GHS分類

皮膚腐食性 / 刺激性 (細区分1A), H314
引火性液体 (区分3), H226
このセクションで言及された H-ステートメントの全文は、セクション 16 を参照する。
眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性 (区分1), H318

2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

絵表示

GHS02	GHS05

注意喚起語

危険

危険有害性情報

H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

H226 引火性液体及び蒸気。

注意書き

安全対策

P242 火花を発生させない工具を使用すること。

P240 容器を接地しアースをとること。

P280 保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P243 静電気放電に対する措置を講ずること。

P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

P241 防爆型の【電気機器 / 換気装置 / 照明機器 / 機器】を使用すること。

P233 容器を密閉しておくこと。

応急措置

P301 + P330 + P331 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

P303 + P361 + P353 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水【又はシャワー】で洗うこと。

P363 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

保管

P405 施錠して保管すること。

P403 + P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

廃棄

P501 内容物 / 容器を承認された処理施設に廃棄すること。

2.3 他の危険有害性

なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学特性(示性式、構造式 等)	: C2H4O2
分子量	: 60.05 g/mol
CAS番号	: 64-19-7
EC番号	: 200-580-7
化審法官報公示番号	: 2-688
安衛法官報公示番号	: -

4. 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

応急措置担当者は自分が暴露しないよう、適切な防護を行う。この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸入後は新鮮な空気を吸うこと。ただちに医師の診察を受けること。

皮膚に付着した場合

皮膚に接触した場合: すべての汚染された衣類を直ちに脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。直ちに医師を呼ぶ。

眼に入った場合

眼に触れた後は多量の水ですすぐこと。ただちに眼科医の診察を受けること。コンタクトレンズをはずす。

飲み込んだ場合

飲み込んだ後は水を飲ませ(多くてもグラス2杯)、嘔吐を避ける(穿孔のリスクあり)直ちに医師を呼ぶ。中和させようとしないこと。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

使ってはならない消火剤

本物質/混合物に対する消火剤の制限なし

適切な消火剤

水 泡 二酸化炭素 (CO₂) 粉末

5.2 特有の危険有害性

可燃性。

蒸気は空気より重く、床に沿って広がる可能性がある。

火災時に有害な燃焼ガスや蒸気を生じるおそれあり。

炭素酸化物

高温で空気と反応して爆発性混合物を生じる。

5.3 消防士へのアドバイス

自給式呼吸器がある場合のみ危険区域に留まってもよい。安全なゾーンまで離れるか適切な保護衣を着用して、皮膚に触れないようにすること。

5.4 詳細情報

容器を危険ゾーンから移動させて水で冷やすこと。消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

救急隊員以外への助言: 蒸気、エアゾールを吸入してはならない。触れないようにすること。十分な換気を確保する。熱や発火源から遠ざける。危険なエリアから避難し、緊急時手順に従い、専門家に相談のこと個人保護については項目 8 を参照する。

6.2 環境に対する注意事項

物質が排水施設に流れ込まないようにする。爆発のおそれ。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

排水溝に蓋をすること。こぼれたら集めて結合させ、ポンプですくい取る。物質の制限があれば順守のこと (セクション 7、10参照) 液体吸収剤と中和物質 (例. Chemizorb® H, Merck Art. No. 101595) で処置すること。正しく廃棄すること。関係エリアを清掃のこと。

6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

火災及び爆発の予防

炎、熱および発火源から遠ざける。静電気放電に対する予防措置を講ずること。

衛生対策

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。注意事項は項目2.2を参照。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管条件

容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。熱や発火源から遠ざける。

7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

OEL-M: 10 ppm 25 - 日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告

TWA: 10 ppm - 米国。ACGIH限界閾値 (TLV)

8.2 曝露防止

適切な技術的管理

汚した衣類はただちに替えること。予防的な皮膚保護を講じること。本物質を取り扱った後は手と顔を洗うこと。

保護具

眼 / 顔面の保護

NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の

保護具を使用する。密着性の高い安全ゴーグル

皮膚及び身体の保護具

本推奨は、当社発行の安全データシートに記載されている製品およびその指定の使用法のみに

適用される。溶解、他の物質との混合、およびEN374に記載の逸脱条件での使用については、
CE認証手袋のサプライヤに問い合わせのこと(例. KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, Internet: www.kcl.de)

フルコンタクト

材質: ブチルゴム

最小厚: 0.7 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Butoject® (KCL 898)

本推奨は、当社発行の安全データシートに記載されている製品およびその指定の使用法のみ
適用される。溶解、他の物質との混合、およびEN374に記載の逸脱条件での使用については、
CE認証手袋のサプライヤに問い合わせのこと(例. KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, Internet: www.kcl.de)

飛沫への接触

材質: ラテックス製手袋

最小厚: 0.6 mm

破過時間: 30 min

試験物質: Lapren® (KCL 706 / Aldrich Z677558, Size M)

身体 の 保護

難燃静電気保護服。

呼吸用保護具

気化ガス/エアロゾル発生時に必要 次の規格に準拠しているフィルター式呼吸器保護具を推奨し
ます。DIN EN 143、DIN 14387および使用済み呼吸器保護システムに関連する他の付属規格。

環境暴露の制御

物質が排水施設に流れ込まないようにする。爆発のおそれ。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

外観	形状: 液体色: 無色
臭い	刺すような臭い
臭いのしきい(閾)値	0.2 ppm
pH	2.5 at 50 grm/l at 20 °C
融点 / 凝固点	融点: 16.64 °C
沸点, 初留点及び沸騰範囲	117.9 °C at 1,013.25 hPa
引火点	39 °C - 密閉式引火点試験
蒸発速度	データなし
燃焼性 (固体、気体)	非該当
引火上限/下限または爆	爆発範囲の上限: 19.9 %(V)
発限界	爆発範囲の下限: 4 %(V)
蒸気圧	20.79 hPa at 25 °C
蒸気密度	2.07
比重	1.04 gPcm3 at 25 °C

水溶性	602.9 grm/l at 25 °C at 1,013 hPa - 完全に溶ける
n-オクタノール / 水分配係数 (log 値)	log Pow: -0.17 at 25 °C - 生物濃縮は予測されない。 , (ECHA)
自然発火温度	463 °C
分解温度	分解されていない状態で標準圧で蒸留可能
粘度	動粘度 (動粘性率) : 1.17 mm ² /s at 20 °C 粘度(粘性率): 1.05 mPa.s at 25 °C
爆発特性	データなし
酸化特性	データなし
表面張力	28.8 mN/m at 10.0 °C
相対ガス密度	2.07

9.2 その他の安全情報

表面張力

28.8 mN/m at 10.0 °C

相対ガス密度

2.07

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

蒸気/空気混合物は、強く温めると爆発性となる。

10.2 化学的安定性

標準的な大気条件(室温)で化学的に安定。

10.3 危険有害反応可能性

発煙硫酸

強酸化剤

硫酸クロム

硝酸

アルカリ性水酸化物/水酸化アルカリ

アルデヒド類

強アルカリ

水素

軟鋼

次との反応で燃焼ガスや蒸気の発火または生成のおそれ

酸化クロム(VI)

リンハロゲン化物

ペルオキシ化合物

次との反応で爆発のおそれ

水酸化カリウム

クロロスルホン酸

アルコール類

アセトアルデヒド

非金属ハロゲン化物
危険有害な分解生成物
マグネシウム
過マンガン酸カリウム
過酸化水素
エタノールアミン
ハロゲン-ハロゲン化合物
次と激しく反応
亜鉛
鉄
過酸化物
過塩素酸

10.4 避けるべき条件

加熱

10.5 混触危険物質

さまざまな金属

10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

11. 有害性情報

11.1 毒性情報

急性毒性

LC50 吸入 - マウス - 4 h - 2,819 mg/l

備考: (RTECS)

LD50 経口 - ラット - 3,310 mg/kg

備考: (RTECS)

皮膚腐食性 / 刺激性

結果: 火傷を起します。 - 4 h

備考: (IUCLID)

(OECD 試験ガイドライン 404)

皮膚 - ウサギ

眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性

備考: (IUCLID)

結果: 火傷を起します。 - 4 h

重篤な眼の損傷。

(OECD 試験ガイドライン 405)

眼 - ウサギ

呼吸器感作性又は皮膚感作性

データなし

生殖細胞変異原性

変異原性(ほ乳類での細胞試験): 染色体異常。

Ames 試験

結果: 陰性

Salmonella typhimurium

変異原性 (小核試験)

チャイニーズハムスター卵巣細胞

結果: 陰性

ラット - オスおよびメス - 骨髄

結果: 陰性

発がん性

IARC: この製品に 0.1% 以上存在している成分で、IARC によりヒト発がん性物質の可能性があり、となり得る、またはヒト発がん性物質であるとして確認されている物はない。

データなし

生殖毒性

データなし

データなし

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)

データなし

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

誤えん有害性

データなし

11.2 追加情報

腫および / または穿孔、肺炎、血尿、無尿、尿毒症、蛋白尿、溶血、痙攣、気管支炎、肺水腫、肺炎、心臓血管虚脱、ショック、および死に至ることもある。皮膚または眼に直接付着または高濃度の蒸気の吸入は、呼吸および消化管の組織に障害を与える。症状として、吐血、血便、食道および幽門の化学的、物理的および毒性学的性質の研究は不十分と考えられる。

の炎症および水腫、肺臓炎、肺水腫、灼熱感、咳、喘鳴、喉頭炎、息切れ、頭痛、吐き気、嘔吐、濃酢酸の摂取ま粘膜、上気道、眼および皮膚の組織に極めて有害である。、痙攣、喉頭の炎症および水腫、痙攣、気管支

RTECS: データなし

虹彩炎、結膜炎、および失明する可能性もある。

暴露を受けた場合、紅斑、水疱、治癒の遅い組織破壊、皮膚の黒化、角化、裂、角膜びらん、混濁化、

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

魚毒性

半静止試験 LC50 - *Oncorhynchus mykiss* (ニジマス) - > 1,000 mg/l - 96 h

(OECD 試験ガイドライン 203)

ミジンコ等の水生無脊椎動物

止水式試験 EC50 - *Daphnia magna* (オオミジンコ) - > 1,000 mg/l - 48 h

脊椎動物に対する毒性

(OECD 試験ガイドライン 202)

藻類に対する毒性

止水式試験 EC50 - *Skeletonema costatum* - > 1,000 mg/l - 72 h

(ISO 10253)

微生物毒性

EC5 - *Pseudomonas putida* (シュードモナス - プチダ) - 2,850 mg/l - 16 h

備考: 中性(毒性の最大許容濃度)(Lit.)

microtox test EC50 - *Photobacterium phosphoreum* (フォトバクテリウム - ホス
ホレウム) - 11 mg/l - 15 min

備考: (IUCLID)

12.2 残留性・分解性

生分解性

結果: 99 % - 易分解性。

(OECD 試験ガイドライン 301D)

備考: (HSDB)

結果: 95 % - 水から容易に除去される

(OECD 試験ガイドライン 302B)

生化学的酸素要求量

880 mg/g

(BOD)

備考: (Lit.)

BOD/ThBOD比

76 %

備考: (IUCLID)

12.3 生体蓄積性

データなし

12.4 土壤中の移動性

データなし

12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

製品

内容物及び容器は、関連法規及び各自治体の条例等の規制に従い、産業廃棄物として適切に処理すること。

14. 輸送上の注意

14.1 国連番号

ADR/RID（陸上規制）：2789 IMDG（海上規制）：2789 IATA-DGR（航空規制）：2789

14.2 国連輸送名

ADR/RID（陸上規制）：ACETIC ACID, GLACIAL

IATA-DGR（航空規制）：Acetic acid, glacial

IMDG（海上規制）：ACETIC ACID, GLACIAL

14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）：8 (3) IMDG（海上規制）：8 (3) IATA-DGR（航空規制）：8 (3)

14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）：II IMDG（海上規制）：II IATA-DGR（航空規制）：II

14.5 環境危険有害性

非該当

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）：非該当

14.6 特別の安全対策

なし

14.7 混触危険物質

さまざまな金属

15. 適用法令

15.1 物質または混合物に固有の安全、健康および環境に関する規則/法律

国内適用法令

消防法：

第4類:引火性液体, 第二石油類, 危険等級III, 水溶性液体

毒物及び劇物取締法：

非該当

労働安全衛生法

特定化学物質障害予防規則：

非該当

有機溶剤中毒予防規則：

非該当

名称等を表示すべき危険物及び有害物：

法第57条(施行令第18条) - 酢酸

名称等を通知すべき危険物及び有害物：

法第57条の2(施行令別表第9) - 酢酸

化学物質排出把握管理促進法：

非該当

略語と頭字語

IATA: 國際航空運送協會

【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。